

「木造阿弥陀如来立像」について

- 1 名 称 木造阿弥陀如来立像
- 2 員 数 1 軀
- 3 種 別 有形文化財（彫刻）
- 4 法 量 像高 70.4 cm
- 5 所 在 地 秋田市雄和下黒瀬字野中8番地
- 6 所 有 者 宗教法人正覺寺
- 7 年 代 江戸時代初期
- 8 説 明

本像は、秋田市雄和の真宗大谷派妙光山正覺寺^(註1)の本堂須弥壇上に安置される阿弥陀如来立像である。

形状については、螺髪は彫出し、髪際列で18粒を数え、地髪部・肉髻^(註2)部を全体に配する。地髪・肉髻両部の境は緩く、白毫相^(註3)・三道相^(註4)をあらわし、耳朵は環状とする。裙^(註5)・覆肩衣^(註6)・衲衣^(註7)を着ける。覆肩衣は右背面から右腕に懸かり、衲衣は左肩から背面をとおり右肩に少し懸かり右腋下をとおって腹前にまわり、衲衣上端を大きく折り返し、再び左肩に懸けて背面に垂らす。裙は、右体側正面で右前に打ち合わせる。右手は屈臂し、掌を前に向けて立て、左手は体側に沿って垂下し、掌を前に下げ、それぞれ第1指と第2指を捻じ他指を伸ばして来迎印^(註8)を結ぶ。

品質および構造であるが、ヒノキ材、寄木造、漆箔。矧ぎ目は、頭部耳前に認められるほかは、明瞭ではない。X線透視画像によれば、頭部は、前後2材による差し首であり、前面材に白毫と玉眼嵌入のための内割りがある。体幹部は前後2材矧ぎであり、前後に狭く、左右に広い内割りを施す。肉髻珠^(註9)はなく、白毫は別材嵌入。両肩、両手首先、両足先等は、それぞれ別材を寄せる。像底は別材をあてた平底漆仕上げ。右側面および同背面の裳先に像底材の矧ぎ目がある。足柄は素木、足柄裏に墨書がある。

保存状態は、右手第3指第2関節から先、左足第3指爪先が欠損。光背および台座は、後補である。像本体、光背ともに銘はないが、台座の各層組み物に層順番号、反花裏側に「安政五年」(1858)などの墨銘がある。台座は、九重蓮華座をより豪華にしたもので、多層加飾型。光背は放射光背で、内円に八葉蓮華文と鏡板、外円に雲渦文、頭光中心から48条の放射光が放たれる。現状の光背・台座は、近世末から近代にかけて調べられたものと考えられる。

本像は、寄せ材の平滑性や、差し首であること、内割りの仕口、像底に別材をはめ込むなど、室町時代後期以降に多くみられる特徴を持っているとともに、寛永3年（1626）に下付された木像本尊であることから、江戸時代初期の制作と考えられる。本像は、近世初期の造像資料として、また秋田市域の真宗文化、とりわけ礼拝対象としての木仏本尊像を理解する上で、重要な資料である。

（註1）本寺は、石川県七尾市の光徳寺。開基浄信が、永正2年（1505）加賀国で一字を建立したのが正覺寺のはじまりである。次いで、永正12年（1515）継職した、二代了願の時、争乱のため弘治元年（1555）阿仁銀山に移り、永禄元年（1558）には河辺郡黒瀬郷湯野目村杉崎に移った。その後、永禄6年（1563）羽根川村に本堂を移築するが、明治9年（1876）に火災に遭い、同16年（1883）現在地に再建した。寺宝に蝦夷錦赤地牡丹紋様七条袷裳（市指定有形民俗文化財）がある。

（註2）常人と異なる32の特徴（三十二相）の一つ。如来の頭頂にある椀を伏せたような形に肉が盛り上がっている部分。悟りを得た如来がもつ身体的特徴の一つ。頂髻相ともいう。

（註3）三十二相のひとつ。眉間に白毛があって右旋しており、伸びると1丈5尺になる。

（註4）三十二相のひとつ。のどに3本のしわがあり、ふくよかな首を表す。

（註5）スカートのようにゆったりとした着衣

（註6）肩にかかる衣

（註7）ぼろきれを合わせて作ったそまつな衣のことで、衲袷裳ともいう。

（註8）右手を上げて左手を下げ、両手とも掌を前に向け、第一指と第二指を捻じた形。往生者を迎える姿をあらわしている。

（註9）肉髻と地髪の間目のあたりに埋められた珠

参考文献

- 千葉乗隆 『本願寺史料集成 木仏之留・御影様之留』1980 同朋舎出版
- 山本勉 「安阿弥様阿弥陀如来立像の展開－着衣形式を中心に－」『佛教藝術』167号（pp. 64-79）1986 佛教藝術學會編 毎日新聞社発行
- 伊東史郎 「久美浜本願寺阿弥陀如来立像について－三尺阿弥陀像への視点－」『学叢』16号（pp. 41-51）1994 京都国立博物館
- 秋田市『秋田市史』第15巻 美術・工芸編 2000
- 千葉乗隆 『真宗文化と本尊（千葉乗隆著作集第四集）』2002 法蔵館
- 光森正士 「阿弥陀仏像」『真宗重宝聚英・第三巻－阿弥陀仏絵像・木像、善光寺如来絵伝－』2007 信仰の造形的表現研究委員会編 同朋メディアプラン
- 寺島典人 「耳の造形に見る仏師快慶・行快工房－耳の近似と相違が語るもの－」『鹿島美術研究年報』32号別冊（pp. 392-402）2015 公益財団法人鹿島美術財団
- 嶋田忠一 『木造阿弥陀如来立像調査報告書』2018
-
- 展示図録『室町時代像展－在銘作品による－』1967 奈良国立博物館
- 展示図録『阿弥陀仏彫刻展』1972 奈良国立博物館
- 展示図録『運慶・快慶とその弟子たち－』1994 奈良国立博物館
- 展示図録『宿院仏師－戦国時代の奈良仏師－』2005 奈良国立博物館
- 展示図録『快慶－日本人を魅了した仏のかたち－』2017 奈良国立博物館
- 展示図録『東大寺と東北』2018 東北歴史博物館

木造阿弥陀如来立像



正 面

背 面